

## 第2回安来市創生総合戦略推進会議

平成27年7月28日(火)午後2時～

安来市中央交流センター 音楽室

### 1. 会議成立報告

### 2. 議 事

(1) 安来市人口ビジョン(案)について

(2) 総合戦略の策定状況について

意見交換

人口減少への対策、地域の活性化について

その他

### 1. 会議成立報告

16名の出席となっており、「安来市創生総合戦略推進会議設置要綱」第6条第2項の規定により本会は成立。

### 2. 議 事

(1) 安来市人口ビジョン(案)について

事務局による説明(資料①)ののち質疑。

(会長)

ただいま安来市人口ビジョンについて説明を受けたが、かなり厳しい状況であることがお分かりかと思う。ここではあまり具体的な数字は出てないが、仮に人口をこのまま横ばいで、減少しないようにということになれば、数百人の転入者を毎年見込まなければ維持できないという結果も出ているようだ。これらを踏まえて、先ほどの説明に対しての質問・意見等はないか。

(委員)

データをみれば大体動向はわかる。これは数十年前から始まっていたことで、今あらためて会議をしても遅い。例えば、目標値を挙げないといけないと思うが、どういう水準を考えているのか。

(会長)

それはここで決めることだ。

(委員)

行政を維持していくためには、ある程度水準の話をしなければならない。そういう要素は非常に高いと思う。減り続けたらどうなるのかがみえない。減り続けるのがいいと言っているわけではなく、このまま2060年までいったら、現状の

50%になると、これは子どもの生まれるというデータベースを一定に考えたらこのようになるわけだが、それを補修したら、若干カーブは変わってくると思うが、これを議論してきて、これをどういうふうに持っていくにしてもある程度の目標レベルがないと議論をやりにくいのではないかと思う。

(事務局)

目標数値は示していく必要があると思っている。今の4万人の人口を維持することは非常に難しいと思うが、何もしなければ下がり続けるわけで、どここのレベルまでもってくるのか、下がっていくのをどこまで食い止めるのかといったところについては、目標数値として今後挙げていく必要があると思う。先ほど全体構成(案)のなかで「V. 安来市の将来人口目標」というところを書き込んでいきたいと説明をしたが、ここに2060年の将来人口目標を載せて、目標達成に向けて何をしていかなければならないか、どういうことをしていかなければならないか、具体的にどういう目標数値を立てていくのかというところを総合戦略のなかで考えていきたいと思っているので、次回の会議ではある程度のものお示しできるのではないかと思っている。

(会長)

それは市としての維持できる、維持していくというような、委員の言われることは、これ以下の人口になれば、市としての維持ができない(税金面などで)、それがどのラインかわかっているのかということではないか。

(委員)

流出の問題で対象が一番多いのは米子市とか松江市である。同じ地域でパイの奪い合いみたいな話だ。そしたら基本的に限度がある。数字だけでいえば。だからある程度明確なものがないと、みんなそっちの方向に行かないのではないか。

(会長)

その限度の数字が市として出せるかどうか。

(委員)

私は製造業なので、4月1日から来年度高校生の就職希望者への説明に工業高校を回った。松江工業はいがいと地元意識が強かった。米子工業にも行ったが、生徒が150人いる。県内から150社くらいと県外から300社くらい求人が来ている。県もしくは市として本当にその辺が把握できているのかということが疑問に思った。県内企業で働く場所がないとかいうが島根県とかがもう少しPRをしていかなければ、このままでは、今状況としては株高、円安も進行している東京オリンピックも近づいていることから、首都圏等にどうしても人が流れる。統計をみても2020年にはカクッと落ちてくるから、さらなる市としての具体的な目標数字を出して、それに向けて活動なり、取り組みをしていかないと、本当に過疎の町になってしまう。私が住んでいる母里は伯太の中でもまだまだ人口がそん

なに減ってはいないが、奥部の方に行くと商店がないとか、奥部の方からこの都市部に転出してしまったりとか、母里地区でも今商店がローソンを含め 2 店舗、1 店舗は電気店なのでコンビニしかないということで、将来、商工会が維持できるのか危惧している。とにかく数字的な目標、また、どういうアクションを市としてはやっていくのかということを考えないといけない時期にきている。

(会長)

人口ビジョンの目標値を設定するのは、この会があくまで決めるものだと私は認識しているが、委員が言われた市としてここまでが限界だというようなものはあるのか。

(事務局)

今、そういった数字は持っていない。

(委員)

会長にお聞きしたい。ここで数値目標は策定するものだという話をされたが、数値目標を設定して、それに対してどうしていくのかという議論をするのか、あるいはどういったアイデアがあって、どういった施策をしていくか、これを話し合った上での数値目標の設定となるのか、そのどちらが先なのかということが一つ。それから先ほどの行政に対して委員がいわれた数値というのは、多分、行政サイドとしては、福祉サービス、子育てへのサービス、住民サービスを今と同じ状態に維持していく条件で考えるのか、あるいはある程度の人口減少を想定して、福祉サービス、行政サービスを少なく変更して、その数字を考えるのか、それによって全然違ってくると思う。はっきり言って今の行政サービスを維持していくと考えれば、今の人口がギリギリだと（今の市の財政を考えれば）思う。なかなかそこら辺が行政サイドとしては出せない点ではないかと思う。数値が先か、アイデアが先か、議論が先か教えていただきたい。

(会長)

どちらが先かということはないと思っている。まだ 2 回目の議論でもあり、委員の皆さんで、ある程度認識をまず一致させ、それからだんだんと決めあげるもので、どこまでの減少率に留めるのか、あるいは横ばいにするのかといったことを決めていくことになるのではないかと思う。ただそのための戦略も同時に示さなければいけないと思う。行ったり来たりしながらいくのではないか。全体としての会議は 4 回しかないなので、その中で決めていくには、ある程度エイヤーという感じだと思う。まだ 2 回目なので皆さんの自由な議論が増えるのが一番だと思う。

(委員)

住環境のことが先ほど出ていたが、若い人たちがよそに家を建てる、市外に住むというのはずっと前からいわれていたことで、実際、住環境についてどうい

ふうにやっていかれるのかということと、それから現在、市役所の若い世代の方々が市に向かって通勤してくると噂ではよく聞く。日立の関係の方々もやはり若い世代は市内というより東出雲とか米子市内に住居を求め市外から通勤してくると耳にしている。安来市にもきちっとした住宅環境があればそういうふうにはならないと思うし、スーパーとかが整備されれば若い夫婦や子供たちもここで暮らしてもらえるのではないかと思う。委員が言われたように施策が先なのか数値が先なのかというより、ベースを抑える必要がある

(委員)

人口ビジョンの説明の中で結論として28ページにあるような方向性について、このところでいろいろな意見を出し、揉んでいかないといけない。会長がいわれたように数字との兼ね合いもあるが、まずここら辺りの意見を出し合わないと思へ進んでいかないとと思う。

(委員)

確かに数字が出ていると状態がよくわかる。・・・皆さんの意見もよくわかる。ただ安来から外に出る・・・どうしたらこの安来の町が楽しく、そこに居たいか。そういう基本的な・・・あまり数字だけ並べていても、もう少し具体的にやる気の起こるような安来を、みんな頑張っているとは思いますが、・・・安来に居りたいというな、人心を掴むようなことを話し合っていかなければいけないと思う。

(会長)

その通りだと思う。どうしたら人口を維持できるのかということはこの場では話し合っ、それなりの方針を決めていかなければいけないと思う。

(委員)

あと2回あると言われたが、それをまとめて国に出さないといけない。そんなことで話し合っ・・・あと2回では大変・・・

(委員)

2点ある。皆さんのイメージ、施策のイメージを一つに合わすためにも仮目標をおいて議論の前提を合わすべきだと思う。何年後のことを考えたらよいのか、10年後なのか20年後なのか、どのイメージなのか、かなり違う。やはり仮目標で何年後を目途にと仮において議論をしてみる。その前提としては費用とか限界ラインはおいといて議論をしてみた方がよい。二つ目は21ページの独身率が高いゾーンの女性というのは、この年代特有の現象なのか。他の年代で独身率が高い現象はないか。コーホートの分析とか比較はできないか。

(事務局)

数字の結論からいうと島根県の全体よりも25～29歳、30～34歳のところが未婚率が高い。その原因については掴みかねている。原因としてはそれだけ女性の方が社会に進出しておられるのかもしれないし、または何か別の要因があつて未

婚率が高いのかもしれない。考えられる要素はあるが、これだというものはない。

(会長)

先ほど話があったように、今回を入れてあと3回で結論を出すというのは非常に乱暴なような気はするが、10月末までにしなければならぬということで、かなり乱暴なところで人口の目標、あるいは委員がいわれたようなどうしたら安来がよくなるかということではなくても、たとえば住宅を求めやすくすべきだとかなど、大まかなところでの整備、どういうふうにすべきか、ということここでは挙げるしかない。個々の具体的な、小さなところまで入っていくのは難しいと思う。そういうことも踏まえてもう少し意見があればお聞きしたい。

(委員)

65歳で定年退職された方を田舎に戻そうという運動がある。そういったことも一つの手かもしれないが、それには福祉、医療などベーシックなところから充実しておかないと呼び込めないし、快適に過ごしていただけないと思う。だから医療福祉面においてどのように今後どのように対応するかということも大筋整えていただければと思う。

(委員)

・・・予算もない財政力もない・・・安来の財政では人口増に転じることはできないと思う。この会の中で、できるかできないかは別に安来市としてこういう施策を・・・住環境、福祉環境・・・こういうことをやらなければ人口減少に歯止めが効かないということを提言してはどうか。数字を出してこれに・・・といってみても戦略的に・・・無責任な提案になる。

(会長)

具体的なところまで出していければいいかと思う。ただ一つここでややこしいのは総合計画の中とある程度、整合しなければいけない。とすれば総合戦略の中で、今議論が出た住環境の整備が必要だとか、未婚率の下げについてもどうにかすべきだとか、どうすれば安来に居たくなるのか、福祉・医療の充実とこれだけでもある程度の方針が出ている。どこまで掘り下げていくのかは難しいというか、それは総合計画の中でもできる気がする。

(事務局)

国のまちひとしごと創生法が施行され、日本では2060年1億人を維持すると。この1億人がいれば、今の社会システムや経済構造が維持できると思うが、それに合わせると19ページにあるように安来市においては地域コミュニティの維持・存続、あるいは地域経済の成長も書いてある。行政のサービスも人口が減少すれば減少していく。これをいかに歯止めをかけるためには、どのくらいの人口規模かということだと思う。

極端に言えば国は今、12,000万人いて、1億ということなので、10%の減少とい

う見方をしている。安来市は今、いろいろなシミュレーションをしながら、人口をはじいている。松江市、出雲市あるいは米子市はすでに目標人口を設定していると聞いている。安来市としても、具体的な人数は申し上げられないが、人数を設定し、それを維持するためには何をどういう施策を打っていけばいいのか。やはりポイントを絞っていく、要は10代、20代で転出した子供が将来的にいかにこちらへ帰ってくる施策をうつのか、20代、30代の転出する方をいかに低く抑えるのか。特に20代、30代だと転出、転入で毎年200人から300人くらいマイナスになっている。そこを食い止めるだけでも人口維持についてはよい方向に向かうと思う。

私は、あるところで聞いたのだが、転勤族の方が家を建てる際、転勤するときに安来では土地・建物がなかなか処分できない。米子、松江に建てるとうまく売買ができる。不動産の売買が活発になれば、必然的に安来に家を建てていただいて、安来に居住していただけることもでてくるのではないかと思う。

遠い将来を見据えての計画なので、今言えるのは人口減少をいかに食い止めるのか、それにはどういう施策をうっていくのか、ということで皆様の意見をいただいている。福祉・医療の関係の話もでていますが、併せて12月までには新たな第2の総合計画も策定していくので、その中でもろもろのことを整合性を図りながらやっていく。

(委員)

28ページに結論は出ている。結婚して子供が増えると人口増加につながる。いろいろな施策があるかもしれないが、出会いの場がない。環境も違っていると思うが、我々が若いころには仲人を専門にしているおばさんがいたり、おじさんがいたりして、紹介して一緒になったりした方がたくさんおられたと思う。そういう場を市の方で考えたらよいと思う。

(事務局)

定住企画課で「はびこの部屋」といって月2回土曜日に出会いの場を作っている。この4月からは定住サポートということで、UIターンを専門にする嘱託職員を2名雇用しそちらにも力を入れている。それから高校生を対象に、地元立派な企業、世界有数の企業があるということを刷り込む取り組みを進めている。

(委員)

何組結婚したか。

(事務局)

まだ成婚までは至っていないが、カップルができたという報告はある。

(会長)

委員からもあったが、28ページに絞って意見をお願いしたい。

(委員)

就学のために転出した若者が安来に帰ってくる流れを作ることは非常に大事なことだと思うが、必ずしも卒業し帰ってくるタイミングではなくても30なり35歳くらいでもまだ帰れる、具体的には可能かどうかは別として行政の方に5人くらいは毎年就職ができるような、仕掛けをする。成績が優秀な者はどうしても都会の一流大学に向かっていくので、そういう者が帰ってこられるような仕組み、方法が考えられないか。

(会長)

他に若い女性の未婚率についてはないか。

(委員)

ちょっと違った面から。どこも各祭りがある。これは地道な活躍だと思う。何日もかかって祭りして・・・祭りに出るということは、その地域が好きになる、そういうことが基礎だと思う。あちらに出ても故郷に帰りたいたと、祭りにはそういう効果がある。

(委員)

人口目標はいくらが妥当かはなかなか言えない。ただ、安来市の財政規模と見比べた人口目標設定が必要ではないかと思う。人口の増減によっても財政規模は変わってくると思うが、その辺りも含んだ目標人口の設定が必要だと思う。それから、先ほどから住宅環境ということがでてくる。私が考えるのは、まずどの年齢層を増やすのか、減らさないようにするのかということだと思う。生産人口を今以上減らさない、あるいは少しずつ増やしていく方策が必要だと思う。それには30代、40代の転入者が安来に住宅を建てやすい施策をする必要がある。その辺りの年齢層が入ってくることによって小学生、もっと小さい子、お年寄りも含め安来市への転入が増えるのではないかと思う。その一環として固定資産税の減免、無料措置を行えば、若干でも減少が減るのではないか。ただ、子育てにしても、福祉の関係にしても、やるべきことはたくさんあるかもしれないが、それが安来市の財政が対応できるかどうかということも考えて検討していく必要がある。

(会長)

今のところ財政等のことまで考えると、これも無理、あれも無理という話になりかねないので、財政は置いておいて意見を出していただければよいと思う。

(委員)

安価で求めやすい住宅地を増やす必要がある。実質的に安来は土地が高い。だからどうしても若い人は出ていかざるを得ない。今、安来市も地域産材活用助成金制度で新築に100万円助成するが、それがあってもまだ米子が安い。行政と民間が連携して求めやすい住宅地を増やすことが必要である。ただ、都市計画法を

見直さないといけない。安来市は調整区域が非常に多く、土地があるけど建てられない。それは安来市だけでは処理できないことだろうが、逆に言えば日本の国として総合戦略を打ち立てて、島根県として定住を促進するという話の中であれば、大枠そういう部分も話し合っていかなければならない。

お年寄りの死亡率が高くなるということに関しては、安来市内の医療機関、あるいは福祉関係機関が多くあるので、健康で長生きできる指導を行政と民間の医療機関等を交えながら施策を打つ。それから、子育て世代が安心して住めるようにするためには、子育ての支援も大事だが、やはり住環境を整えることも必要である。例えば旧市街地に空き家がたくさんあるので、公園を整備し、若いお母さん方に子供連れで集まり、情報交換ができるような場所を作るとか、そういう拠点を各地域に作るとかというやり方も一つの方法だと思う。若い世代、お年寄り、子育て世代、高校生・大学生が卒業して安来に残ってもらうというような、4つぐらいの枠の中での施策を考えながら進めていけばよいと思う。

(委員)

人口減少に関してわかりやすい目安があればよいと思う。例えば、今安来市にある小学校の数を10年後に一切廃校なしで残すとか、今20校あるとしたら30年間は15校までしか減らさないとか、そういったものがあればわかりやすい。広瀬の小学校は全校生徒が何人で10年間でどういうふうに減ってきたかなど、地域ごとに違いがあると思う。安来市の小学校はこのままいくと10年間で5校はなくなるだろうというのが見えたら、学校を残していくために人口減少を抑制する考え方ができて、議論がしやすいと思う。

(会長)

学校の将来数については事務局と相談してみる。未婚率が高く、出生率が低いということはどう思うか。

(委員)

未婚女性が多い理由はわからない。私の友達、近くに住む先輩も、働くと出会いが一切ないとよく言っている。

(会長)

ワールドカフェでも結婚に拘ることはない、結婚しなくても子供を産むのをもっと手伝えばいいではないかという意見もあった。

(委員)

今、女性も高学歴が多い。就職をして、仕事がおもしろくなって・・・35歳くらいまで働いて、それから結婚する。やはり高校生で就職すると気が付いたら25歳になっていたという感じで、仕事仕事に追われて出会いもなく、気が付いたら何歳だったという方が私の周りに結構いらっしゃる。



(会長)

結婚しなければならぬという理由がよくわからないんだと思う。

(副会長)

具体的な目標が定まらなくてもアイデア出しはできる。さきほど委員が言われたことは非常に大事だと思う。具体的な人口目標は難しいが、いろいろなヒントがあるはずで、先ほど委員が言われた小学校を維持するためには最低何人必要だとか、農業を自立させていくためにはこれぐらいの人がいてほしいとか、緻密なシミュレーションを積み重ねていけば、ある程度の参考値が出てくるはず。それはいずれ出さなければいけない。出さないと戦略は具体的にできないはずだ。例えば小学校を維持するのに何人必要だといって考えたときにおじいちゃん、おばあちゃんを呼んできても仕方がない。子供を増やすために年頃の家庭を呼ぶなり、育てるなりしなければいけない。細かなところもいずれしなければいけない。

(会長)

乱暴な話だがこれから 10 年後、安来がどれぐらいの人口であればよいと思うか。個人的に、無理だろうとかは考えずに、こうありたいというものはないか。

(委員)

私が思うには、これからのいろいろな施策をやっても、その成果が出るには 10 年、20 年はかかると思う。だから今の人口減少を急に止めることはできないので、15 年後ぐらいの数字が一つの目標になると思う。

(会長)

今は目標値とかではなく、10 年くらい後にどれぐらいの人口だったら自分の街はいいかなということ。

(委員)

このグラフと変わらないということ。15 年後で止めてほしい。

(副会長)

たとえば野球をするには 18 人いなければできない。15 人では意味がない。産科は何人くらい子供が産まれたら維持できるのかというのはあるか。

(委員)

わからない。

(副会長)

産科がなくなるというのは、相当なダメージだ。これだけ産まなければいけないというのがいくつかの分野ではあると思う。

(委員)

先ほどの意見に賛成で 2040 年にこの推計値 (2.9 万人) どおりであればいいなと思う。

(委員)

15年後は2030年、3.3千人。

(委員)

安来市の人口ならとにかく夫婦が一組入れば、まずクリアすると先生に言われた。比田のところで夫婦2人入られて1人生まれた。1人生まれるということは、大きくなって孫ができて、おじいちゃん。そうするとクリアして、年に一組入ればクリアと先生は言われる。

空き家バンクはどうなっている。

(会長)

まだ機能していない。ここで空き家をこうしようということになれば、それに対し施策を考えようということになると思う。

(委員)

(資料安来市人口増加プロジェクト) 経済的支援で出産祝金を30万円・・・至れり尽くせりで羨ましくなるが、一つの案として出産祝金は・・・結婚祝金として30万円・・・安来市内のどこでもよいので住んで・・・子供のときはそんなにお金が必要ではなく、大学に入ったり、高校それからお金が際限なくかかるので、育児支援も大事だが、就学支援も考えていただければと思う。

## (2) 総合戦略の策定状況について

事務局による説明(資料①)ののち質疑。

(会長)

次の会議が第3回になるが、この時は意見交換会から出た意見、あるいは職員が考えられた施策の案、この会議で出た様々な意見などを取り入れたものをこれから提案させていただきながら、また、先ほど人口目標を設定しやすいための何かの基礎資料といったものをそろえながら進めていきたいと思う。残った時間、それらの意見とか、これまでの議論を踏まえ、ご意見をいただきたい。

(事務局)

委員から30代のUIターンの仕組みづくりについての意見があった。島根県、定住財団がUIターンフェアを東京、大阪、広島等で実施している。そこで30代、40代の方で農業であったり、製造業に努めている方がこちらへ帰ってきたいという相談を受けている。そういったことには力を入れていきたいと思っている。それから、市役所の関係については今、来年度の募集をかけているところだが、年齢を若干引き上げている。確か30歳までだと思うが、年齢を引き上げて幅広く採用していく取り組みをしている。

財政に見合った目標人口というのは当然だと思っている。それでそのほかに定住対策として住居の関係だが、定住企画課の方でも住宅支援制度を持っている。

UIターンで来られて空き家バンクに登録されているものを改修した場合であるとか、市内に転入してこられてアパートに入られた時の一部補助であるとか、それから特に三世帯住宅への補助制度もある。地元産材を使った建築への補助もある。これらを今後も進めていきたい。

規制緩和については、これはやはり国に求めていきたい。特に都市計画法というのは、東京と安来が同じ網が使っているというか、それが非常に人口増を阻害していると思っている。実は日本国憲法にはどこに住んでもいいと書いてあるが、都市計画法には調整区域には家が建てにくいということで人口が減っていくということもあると思っている。それからお年寄りの関係では、介護予防ということで介護保険制度では65歳以上の方で介護のお世話にならないよう取り組みもしている。子育ての支援制度については、今年から幼保一元化ということで認定こども園制度もスタートしている。

総合戦略を策定し具体的なものを定めていくが、その中で目標数値を設定するが、これについては次回以降明らかにしていけるのではないかと思う。

総合戦略の中で人口ビジョンについていっているが、安来市にはいろいろな計画があり、介護保険については10年後の人口目標が36千人を設定し、そこをめがけて介護保険のサービスをやっていく。都市計画マスタープランだと何年後かに人口4万いくらと設定してあったり、水道事業なども人口をもとにはじいている。安来市の中にいろいろな計画があるが、整合性が図られていない部分がある。私たちとしては、社人研が示した数字、2060年には半分になるというのはあまりにも悲観的な数字なので、新たな目標を持ってそこに向かって施策を打っていくのが使命だと思っている。

(会長)

皆様からもう少しご意見をいただきたい。

(委員)

この人口ビジョンで決めた数字で個々の人口設定は修正されるのか。

(事務局)

あくまでもそれぞれが作った計画なので修正しなさいとは言えない。介護保険だと具体的な数字をはじいていかなければいけないので、ある程度それにそったものであると思う。

都市計画課のマスタープランは、目標値を高いところに設定し、それなりの街づくりをしていくという観点でやっている。

(副会長)

アイデアというか基本的な考え方として、人口を増やすとぼんやりとやっても、ぼんやりした成果しか出ないと思う。実際はぼんやりとやる部分があってもいいが、コアな部分な人、こういう具体的な人を呼んでくるか、育てるかとい

うコアな部分を作るとよいと思う。たとえばアーティストを10人田舎に呼び込むなど具体的なものもあわせていかないといけないと思う。

(委員)

(委員提案資料の説明) 日本で最も子育てしやすいまちを安来らしき、これの差別化がテーマで、先行地区の実態調査から始まり内外への効果的なPRの実現と住民の誘致および流出抑制といった段階まで発展させる。つまり、テーマの設定からPRまで一貫してすべて統合させる。ここまでをまとめたプロジェクトを提案、取り組んでいただきたい。これができてPRできれば、住民も外には出ないだろうし、外から来るかもしれない。これは妊娠・出産・育児・保育・教育すべてに対して日本一は謳えないかもしれないが、どこかで日本一を見つけ出して、日本一をPRしないと、結局は松江に飲まれてしまう。課題としては、そういう人材を引っ張ってくるのか、受け入れる市営住宅がないとか。旧市街で空き家の議論をされていたが、空き家を高層化して、人が歩いていける範囲でお店と老人と誘致した人をまとめ上げる、そういうコンパクトなまちづくりができれば一番いい。そういうことができれば日本一になると思う。あと本当に日本一といえるには年収が低い(260万円くらい)独身の女性、若い女性が子供を安心して育てられるようなシステムになっているかどうか重要だ。Uターンをするにしても今後人不足になっていく、夜型の労働部門、運転手だとか、看護師、介護士、販売業、こういったところに重点を置く必要がある。

(委員)

15年ぐらい前の、ある地区の結婚適齢期の女性の場合で、女性の方が捕まえてきてすぐ結婚されたことがあった。意外と今マスオさん式というか、女性がどんどん男性を引っ張ってきて・・・サザエさんのような家庭が築けるのではないか。

(会長)

様々なご意見をいただいた。それに加えて先ほどの市民意見交換会、ワールドカフェで出てきた意見、市役所の職員の意見など、次回の会議ではこれまでにでてきた意見をまとめながら施策のなかで箇条書きにでもしていきたい。また、ある程度いろいろなデータに基づいた人口想定案を作って、その中でまた皆さんのお話を伺っていきたい。

(事務局)

次回で人口ビジョン案をお示しできると思う。いろいろいただいたご意見も具体的な形にして施策に反映させてご報告できるのではないかなと思う。それから副会長からあったアーティストの関係だが、今年度、アーティストというか、なかなか安来市も若い人の起業創業が少ないため、取り組みをしようということで、商工観光課の方から商工会議所に委託をして起業創業のセミナーをやりながら、まちなかの空きスペースを使い、チャレンジショップ的なところで、クリエイター

一だとかを呼び込んでいければということを考えている。

(会長)

皆様にもう少しどういう施策、自分ながらのものを考えていただきたい。もう一つは皆様が考えられる人口の許容範囲を考えていただき披露してもらえればと思う。

(副会長)

次回までに皆さんの方からのご意見があればペーパーにして出してもらえればよいと思う。

(会長)

それではこれで終わりにしたいと思う。